

I はじめに

水源から蛇口までの大規模な水道システムを動かし続け、安全で良質なおいしい水を約300万人のお客さまにお届けしている千葉県水道局は、日々、大量のエネルギーを消費しています。特に、各種機械や電気設備を使って水処理を行う浄水場や、ポンプなどで常時送配水を行う給水場の運転には大量の電力を必要とするため、電力が消費エネルギーの9割を占めています。

電力などのエネルギー消費は、一方で地球温暖化につながるCO₂の発生原因となることから、私たちは、水道水の安定的な供給という使命を損なうことなくエネルギーの消費削減を可能にする事業や、環境負荷の低減に資する取り組みを進めてきました。

平成19年に稼働・通水した最新施設である、ちば野菊の里浄水場には太陽光発電設備を設置しているほか、給水拠点である幕張給水場、妙典給水場及び北船橋給水場（平成26年2月稼働）には送水の余剰圧力を利用したマイクロ水力発電設備を設置して、得られた電力を場内照明などの自家消費に充てているなど、購入電力の計画的な削減を図っています。また、送配水管の布設や維持管理に当たっては自然流下を利用する工夫や、適時適切な漏水検査と修繕によってエネルギーロスの抑制に努め、さらに浄水場発生土、工事残土等の産業廃棄物についても積極的に再資源化を進めるなど、様々な取り組みを通じて経営目標の一つに掲げる「環境に優しい水道」を目指しています。

本報告書は、私たちのこれまでの取り組みや実績をご理解いただくため、平成17年度から毎年発刊しているものです。

作成に当たっては、水道事業と環境とのかかわりや環境保全の取り組みを写真や図で紹介するとともに、エネルギーの消費量や排出物の量、水質の状況、環境に関する法令遵守の状況、環境保全のコストや成果などについて記述し、第三者機関による客観的な審査と保証のもとに、分かりやすいものとなるよう心掛けました。

より多くの皆様にご活用いただけましたら幸いです。

私たちは、環境に配慮した水道事業を推進し、これからも安全で良質なおいしい水をお客さまにお届けしてまいります。

平成26年2月

千葉県水道局長 **岩館 和彦**